

養成・研修一貫型アンダーナイン教育システムの開発

～初等教育フィールドワーク研究に構築される学生と若手教員による協働的・省察的な学びの実践～

調査の概要

◆課題認識

- ・5年未満の教員が30%
- ・養成と採用・研修の乖離

◆調査研究の目的

- ・初等教育フィールドワーク研究を通じて、若手育成と養成の一体化を図ること

◆調査研究の方法

- ・初等教育フィールドワーク研究による若手と養成系大学生の協働的な学び
- ・教員としての成長を評価する評価票の作成

◆調査研究校

- ・神奈川県横浜市
- ・小学校6校

◆現状

- ・市内学校数：小学校348校、
- ・初任者：30%（平成29年4月現在）
- ・研修の特色：メンター制の一部導入

取組のポイント・成果

◆取組のポイント

①ポイントA

- ・これまで乖離していた養成と研修を一体化したモデルが6校抽出された。
- ・SV（退職校長によるスーパーバイザー）が学生と若手教員の両方の支援を実施した。

②ポイントB

- ・採用内定者のインターンとしての意義が見いだせた。
- ・採用後へのスムーズな連携が実施できた。

◆成果

- ・5名の採用内定者が授業観察及び授業実践、児童とのかかわりを持ち、4月赴任後へスムーズな連携ができた。
- ・9名の教員採用希望者が教員採用試験や採用後に向けて、実践的な学びに取り組めた。
- ・SVが拠点小学校の重点研究におけるアドバイザーになったり、授業実践の振り返りをしたりして若手教員の支援にあたれた。
- ・学びのツールとしての横浜スタンダード33項目評価票と初等教育フィールドワーク研究ハンドブックを作成した。

今後の課題

◆「インターンシップ」の強化

- ・教員内定者のよりスムーズな採用への移行・・・多くの学生は教育実習以降、採用まで授業を観察したり、実習したりする経験がない。
- ・SVの活用による若手教員の授業力向上へのより積極的な関与が必要である。